

食品分野におけるプラスチック容器包装資源循環タスクフォース（第7回）  
議事要旨

1. 日時・場所：令和8年4月17日(金)14:00~16:30
2. 農林水産省会議室（ハイブリッド形式）
3. 出席者：別紙のとおり（出席者名簿）
4. 議題：（1）EUにおける食品企業の対応  
（2）食品産業におけるプラスチック資源循環の現状と課題及び今後の方向性について  
（3）その他

5. 主な発言内容等：

（1）EUにおける食品企業の対応

- ネスレ日本株式会社から資料説明。

<意見交換>

○ 再生プラの利用状況

- 再生プラの需要側である食品企業としての役割と、包材提供側の化学品メーカーとどのように向き合っているか。
  - 企業として再生プラの利用実績を公表。特にPETボトルでは利用が進んでいるが、それ以外では、特に軟包材を中心とした食品接触材料に関しては安全性などの検証中。自社研究所でも研究中。
- PPやPE等の軟包装用で再生材は製品に実際どの程度使っているのか。また、今後の研究等により、利用できるようになる見通しの時期はあるか。
  - PPやPEの再生材は食品に接触する一次包材としては利用が難しいため、直接は接触しない包材（シュリンクフィルム等）で積極的に活用している。具体的な解決時期は言及が難しいが、法整備の中で安全性の基準が明確に決まれば、それを受けて活用する道筋が描けるか。

○ 自社で定めた目標やルールに対する考え方および対応状況・方向性

- 目標として掲げている「リサイクル可能な設計」とは具体的にはオレフィン系（PPやPE）のみということか。また、実際にリサイクルされている割合はどの程度か。
  - 設計の定義は自社で定めたThe Golden Rulesに合致しているかどうか。実際にリサイクルされている割合は数字を持ち合わせていないが、設計段階だけでなく実社会でリサイクルが進むよう対応を進める必要を認識。
- The Golden Rulesの①について、「排除、削減、代替、再生材の使用を通じて、バージンプラスチックの使用を減らす。」とあり、本タスクフォースでは再生材利用にフォーカスを当てて議論されているが、各社、各業界がサステナブルな環境負荷低減の取組としていくためには、①の取組は重要と考える。ネスレ社として、今

後、①「排除、削減、代替、再生材の使用」のうち、どの取組に重点を置く、傾斜をつけて行くという方針はお持ちか。

➤ 特段、①のうち、どの取組に傾斜をつけるということは考えていない。

## (2) 食品産業におけるプラスチック資源循環の現状と課題及び今後の方向性について

- 事務局から資料説明。

### <意見交換>

- 現状と課題、取組方向等のとりまとめに対する意見
  - 食品業界団体や企業が持つ包材等の研究開発ニーズを可視化するため、整理をしてほしい。また、食品包材の中で、直接接触する一次包材とそれ以外に分けて整理をしてほしい。
  - リサイクルを進めるには回収と選別が大事であり、今の容リルートを前提とせず新しいやり方も含めて検討してほしい。また、需要の予見可能性については、現在の価格等の条件では、需要側からその見込みを示すことは困難。どうすれば予見可能性を高めることができるのかを検討してほしい。
  - 消費者の理解向上については、全体で取り組まないといけない課題。別途行われている自動車への再生プラ利用の検討会等においても項目として挙がってくる。本TF構成員だけでなく、他産業等も含めて全員で取り組む必要。
  - 油付きPETについて、再生PET素材のひっ迫が課題だとすれば、再生PETの供給元として油付きPETにも広げていくことを含めてほしい。
  - 取組方向にはプレイヤーごとに何を行うかが分かるように記載し、将来的にTFなどでフォローアップとして報告できるような形のとりまとめをお願いしたい。
  - 取組方向は、これまでの議論で出された再生プラに係る供給側、利用側の実態や課題を丁寧かつ客観的に踏まえてとりまとめていただきたい。繰り返したが、需要の予見可能性は、供給側での量・質の見通しがあることが大前提。
- とりまとめ後のTF等の開催
  - 本会合は再生材利用に係る意識醸成や情報共有に非常に有益であったため、TFかどうかはともかく、継続的にこのような場を設けてほしい。
  - 今後の取組の拡大のためにも、TFに参加していない業界にも情報や意識が共有できるよう、情報連絡会のような場も検討いただきたい。

## (3) その他

- ・ 最近の中東情勢とプラスチックへの影響について
  - (一財)カーボンニュートラル燃料技術センター、日本プラスチック工業連盟から説明。

(以上)